

平成30年度3月号 [3月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校
川口市東本郷2-20-47番地
TEL048-281-4065
特別支援学級 285-2423
さわやか相談室 281-4627
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

自立と自律

校長 安部正幸

今回PTA機関紙『しいのみ』に、3年生への贈る言葉として白血病と診断されながらも夢をあきらめずに生きた教え子のことを書かせてもらいました。原稿を書いたのは1月でしたが、寄稿後2月になってから池江璃花子選手の白血病の報道があり話題になりました。その時、彼女が出したコメントは実に見事なもので、まさに『**自律の精神**』をそこにみたような気がしました。今医学は大きく進歩し、白血病はしっかり治療すれば完治する病気になりました。私は、教え子と同じくらいの年代で同様の診断を受けた池江選手にこそ、しっかり治療に専念し、持てる夢をいつか叶えてほしいと思っていますところでは。

自立：他への従属から離れて独り立ちすること。

他からの支配や助力を受けずに存在すること。

→対義語は『依存』

自律：他からの支配や制約を受けずに、

自分自身で立てた規範に従って行動すること。

→対義語は『他律』

『自立』と『自律』を辞書で調べてみると、上のよう書かれてありました。中学校の三年間は、小学校の六年間とは異なり、中学校卒業と同時に義務教育が終了します。卒業後は就職をして社会人になる人もいます。そう考えると中学校の最終目標の中に『自立』『自律』というキーワードを入れることは重要なことだと思います。実際に中学校の3年間を見てみると、学年が上がるほど、いじめやSNS等によるトラブル、些細な喧嘩、保護者からの問い合わせなどが減少していきます。これは、まさに生徒の皆さんが中学校の中で、自己判断力や自己解決能力を身に付けている証拠だと考えます。法的には二十歳までは未成年者で保護者の監督下にあるわけですが、実質的には、いつまでも保護者に頼ってはいけないのも事実です。中学校から巣立つということは、『**自律の精神を養い、精神的に自立する。**』ことなのだと思います。

72期生の皆さんは、私が校長として東中に着任したときに入学した生徒たちです。今までの先輩たちと異なり、3年間をともに過ごし、その成長ぶりをしっかりと見ることができた最初の学年です。入学のころあんなに幼かったのにと年月の過ぎる早さを実感しながら、本日皆さんの巣立ちを見送ることになりました。皆さんの母校である東中はいつまでも皆さんを応援し続けます。皆さんも今度は卒業生として、そして地域の一員として、東中を応援してください。